准看護師として 新たな一歩を踏み出す

2月29日、小林准看護学校で卒業式が行われました。今年は15人の生徒が卒業。園田定彦学校長から「看護師になることをゴールにするのではなく、どんな看護師になりたいのか、どんなふうに世の中の役に立つのか、これから自分の看護師像を作っていって欲しい」とエールが送られました。

卒業生代表の小田怜佳さんは「これから壁にぶつかり悩んだ時は、お世話になった人の想いを糧に、乗り越えていきます」とあいさつしました

感染症予防厳戒態勢の中で迎えた旅立ちの日

3月16日、市内9つの中学校で卒業式が行われました。各校とも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、在校生の出席を見送るなど規模を縮小して開催。小林中学校では、小坂芳史校長が「一人ひとりが知性と個性を生かして、人の役に立てる人に成長することを期待しています」と卒業生150人に言葉を送りました。

卒業生を代表して外薗徹大さんが「支えてくれた全ての方への感謝を忘れず、自信と誇りを持って自分の道を進みます」と決意を述べました

金丸先生は「地域によって命の格差があってはならない。信念を持ち、夢に向かって挑んで欲しい」と学生にエールを送りました

救急・災害医療の現状を学ぶ

2月20日、小林准看護学校で、救急・災害医療の現状を学ぶ特別講義が開催されました。県のドクターヘリ導入に尽力した宮崎大学医学部附属病院救命救急センターの金丸勝弘医師が、ドクターヘリ導入から現在の状況について講義を行いました。講義には在校生全員が参加。2年の芝原菜月さんは「一人でも多く助けられるよう、日々成長していきたい」と今後の抱負を述べました。

舘下真亜さん（高2）は「わかりやすい発表に努めたので、小学生から『勉強になりました』と感想があり嬉しかった」と授業を振り返りました

オオヨドカワゴロモを通じた 小学生と高校生の交流授業を実施

2月27日、三松小学校で同校児童と小林高校探究科学コース生徒の交流授業が行われました。知識の深まりや、地域貢献などを目的に実施。小学4年生が高校生や同級生に、高校生が小学4・6年生に、授業や選択科目で調べた『オオヨドカワゴロモ』について、互いに発表しながら交流しました。